

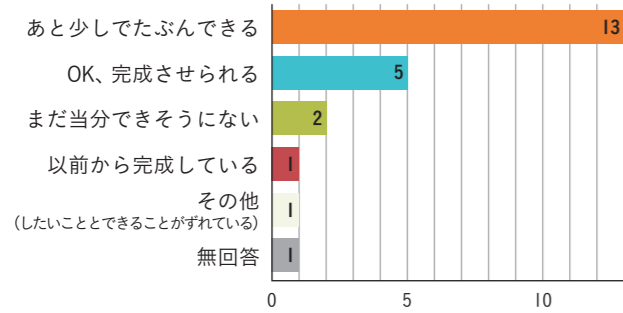
# MIYAZUKA PROJECT NEWS LETTER

Vol.3  
第3回ワークショップ



## アンケート

### ●あなたの「企画」は完成しそうですか？



### ●企画の実現のために、相談してみたいことは？

- 人の集め方 ○宣伝の仕方 ○発信の仕方 ○部屋の電源の確保 ○具体的にいつからどのような形で進められるのか ○自分のアイデアが果たして社会から必要とされているのか ○本当にしたいことがまだ分からない ○平和と手仕事に関する活動をしたいがどう実現させたいか ○ニートの働ける場をつくりたいがどう詰めたいか ○旧宮塚町住宅を使用する時の資金と内装について ○家から出ない人たちとの接点のつくりかた ○自分の趣味を悩めるお母さんと一緒に活かす方法、仲間づくり ○つながりづくり ○漠然としていてまだ相談ができそうにないことを相談したい ○寄付の集め方 ○手伝ってくれる人の集め方 ○採算について ○クラウドファンディングの方法とコツ ○旧宮塚町住宅の具体的な運営システムやプランについて ○やりたいことを全部してみるか、何かに絞るか ○パートナーとつながる方法

## 第4回ワークショップのご案内

今回のワークショップは、テーブルコーディネーターの岡田慶子さんをゲストに迎えて、「どうすればできるか考えよう」をテーマにトークセッションを行います。

日時 11月30日(金) 13:00～・19:00～

会場 男女共同参画センター(公光町分庁舎)

テーマ どうすればできるか考えよう

次回までの宿題  
各自の企画を明らかにして、自分の「PLANNING SHEAT」を完成させてくる。



ゲスト 岡田慶子さん

芦屋市在住のテーブルコーディネーター。「日々の食卓やおもてなしのティータイムを、心まで美味しくする!」をコンセプトに、お茶とお菓子をコーディネート。大好きなテーブルコーディネートを続けるために、さまざまな工夫と努力をして活躍中。2016年1月 東京ドームテーブルウェアコンテストコーディネート部門:優秀賞/2017年1月 東京ドームテーブルウェアコンテスト コーディネート部門:入選・特別審査部門:入選 など受賞歴多数。

来年3月まで、旧宮塚町住宅とあなたの「これから」を創るワークショップと相談会が開かれます。



### ワークショップ開催日とテーマ

- 第1回 9/28(金) あなたのしたいことを再確認しよう! 済
- 第2回 10/19(金) あなたが求められていることはなに? 済
- 第3回 11/8(木) 気になるケースをリサーチしよう! 済
- 第4回 11/30(金) どうすればできるかを考えよう!
- 第5回 12/14(金) 自分の「これからプラン」を発表しよう!
- 2019年 1月～3月 相談会(日時未定)

ワークショップの参加申込は締め切りました。

お問合せ/芦屋市役所男女共同参画推進課 芦屋市公光町5-8 TEL. 0797-38-2518

【開催日】  
2018年11月8日(金)  
・昼の部13:00～  
・夜の部19:00～

【参加者】  
・昼の部:12名  
・夜の部:13名+見学者1名

70余年にわたり、市営住宅として役割を果たしてきた「旧宮塚町住宅」が、2019年春、芦屋市活性化の拠点として生まれ変わります。「MIYAZUKA♥PROJECT」は、その活用を含んだ市民活躍のための連続ワークショップです。

11月8日に開かれた第3回のワークショップでは、「あなたのしたいことを企画にまとめよう」をテーマに、したいことをより具体的にプラン化するためのウォーミングアップとなるワークをしました。



## 1 振り返りをしました

- ニュースレターを使って前回のワークショップの振り返りをしました。
- ・このワークショップの目的と旧宮塚町住宅との関係性についての確認
  - ・東村さんのトークの振り返り

## 2 東村さんへの質問に回答しました

前回のアンケートに書かれていた東村さんへの質問に対する回答を聞いたので、みんなで共有しました。

### ツクルやヒトトバを始めるベースとなる経験は何ですか？

特にありません。  
NPO法人をつくり2軒のシェアハウスを運営した経験はありますが、ツクルやヒトトバといったお店に関しては、いわば「ぶつつけ本番」でやっています。  
いいことか悪いことかは分かりませんが、「とりあえずやってみて修正する」というのが私のやり方です。

### 自分とテストが違う人や作品や事業の受け入れはどうしていますか？

受け入れることはなく、やんわり断ります。  
なぜなら受け入れるとお互いに不幸になるから。  
いい人だけど、作品や事業に違和感がある。作品や事業はいいけれど、この人とは合わない。その両方とも受け入れません。

### 果たしてシェアはビジネスになるのでしょうか？収益はどうですか？

「ビジネスになる！」と信じてやっています。  
というか、これからはシェアしか未来のあるビジネスはないと思ってやっています。  
収益は、事業が継続できる程度にあります。  
私が目指す「儲け」はお金ではなく、人のつながりや楽しい毎日なので、そういう意味では「儲かっている」と思います。

### なぜそんなにパワーがあるのですか？継続できるコツはなにですか？

自分のことをパワーがあると思ったことはありませんが、「思いついたことはできるはず！」と信じる力は強いです。  
当初の理想通りではないかもしれないけれど、やめさえしなければ、どんなかたちになっても、できることはできます。それでいいんじゃないかな？

### コミュニティをつくる方法は？コレと思う人とつながる方法は？

まずは自分の「軸」を決めることです。  
どういうコミュニティをつくりたいか、どういう人に集まってほしいかを自分が明確にすると自然にそういう人が集まり、思うような流れがつかれます。それがはっきりしていないと、なんでもありの、意味不明な集まりや場になります。

### アイデアはどんな時に生まれますか？

いつでも生まれます。が、そのことをずっと考えているわけではありません。  
アイデアを思い付いたら、あまり構わず、少し放っておくと、機が熟してポトリと落ちてきます。そういうアイデアのほうが、一生懸命ひねり出したものより、上手くいくことが多いようです。

## 3 本日のワーク

### PART1 リサーチ事例の発表

宿題になっていた、「3つの輪を完成させていると思う事例のリサーチ」の結果を発表したあと、気になる事例をスマホで撮って自分の参考事例集を作りました。

<集まった事例の一部をご紹介します>

- ・店休日を利用して健康セミナーを開催する八百屋カフェ「グリーンフィールド」
- ・函館の隅から隅までをガイドし、10か国語対応もしている情報サイト「はこぶら」
- ・離島の風景、地形、住民が一つになって開くおもてなし型サイクリングイベント「HAPPYライド」
- ・子どもたちに放課後の居場所と学習機会を提供するボランティア「精中まなび家」
- ・教えると教わるを同時にできる女性活躍推進プログラム「芦屋レジューム」
- ・リュックサックに売りたい物を詰めて山に登るイベント「リュックサックハイキング」
- ・そのスポットの昔の写真をスマホで見られる姫路市のまちあるきプログラム
- ・有志が古民家に古本を持ち寄り、日替わり店番制度で運営する「みつばち古書部」。
- ・親子で野球を楽しむ「ティーボール教室」
- ・レモンサワーにこだわり、レモンサワーに関する様々な企画を立てる「レモンざむらい」
- ・こだわりのある人と個性的な物件をマッチングする「R不動産」
- ・耕作放棄された茶園を復活させ、ふるさとの銘茶を復活させた「世羅茶プロジェクト」



気になる事例をスマホで撮ったりメモしたりして、自分の参考事例集を作る。

### PART2 3つのグループに分かれて「企画」を完成させよう

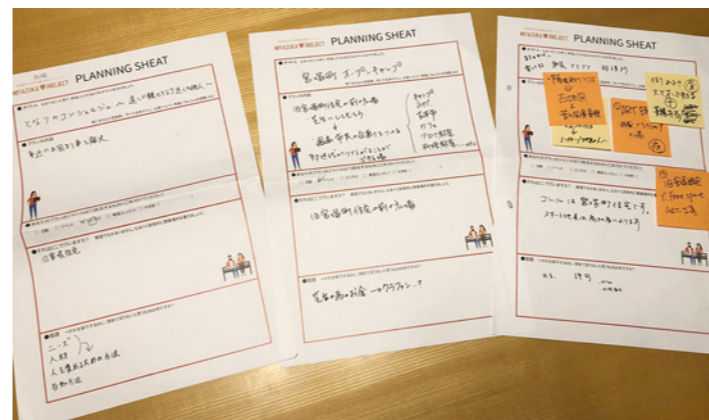
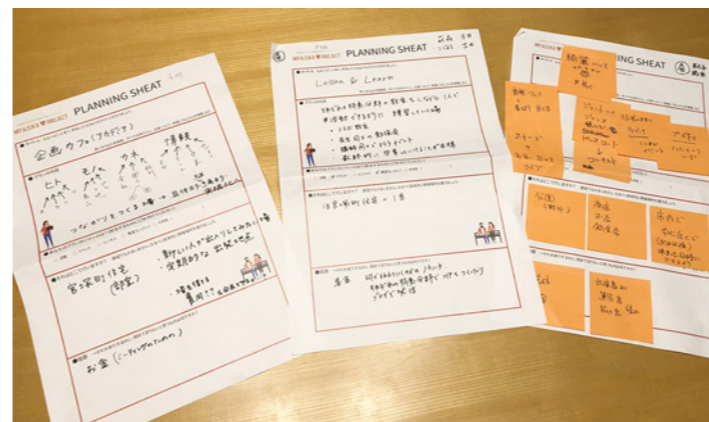


前回行った「まちを楽しくきれいにする」「仕事や活動を起こす」「つながりをつくる」の3つのミッション別に、具体的な企画をつくるワークの続きです。今回はメンバーそれぞれが「したいこと」「できること」を書きこんでいきましたが、今日はそれを踏まえて、また先ほど収集した事例を参考に、グループで具体的な「企画」を生みだすことを目指します。

企画は、次の3つのルールを守って立てましょう。

- ①タイトルをつける ②なるべく具体的にする ③不足しているものを明らかにする

### こんな企画が生まれました！



#### <昼の部の3チームの企画案>

- つながりをつくるチーム⇒いろいろなことを心ゆくまで議論できる「企画カフェ」
- 仕事や活動を起こすチーム⇒得意なことを教える教室を実験的に開催できる「Lesson&Learn」
- まちを楽しくきれいにするチーム⇒最後の清掃とイベント参加を同時にする「きれいにしてカエル隊」

#### <夜の部の3チームの企画案>

- つながりをつくるチーム⇒ご近所が困り事の解決の手伝いをしてくれる「となりのコンシェルジュ」
- 仕事や活動を起こすチーム⇒旧宮塚町住宅の広場を芝生化して憩いや活動の場にする「宮塚町オープンキャンプ」
- まちを楽しくきれいにするチーム⇒まちを良くするアイデアを持ち込み、実現するための相談ができる「アイデア相談所」

## 3 5分間レクチャー「学びを最大化する「ラーニングピラミッド」

studio-Lの林彩華さんによるレクチャーです。

学んだことを自分のものにできる割合(定着率)について、アメリカ国立教育研究所は下のような数字を発表しています。たとえば講座を受けているだけでは5%程度しかものになりませんが、学んだことを人に教えると90%を習得することができます。つまり、受動的な学習から積極的な学習に切り替えていくと定着率が増すという説です。

できるだけ主体的、積極的に学び、さらに学んだことを行動に移すようにすると、ものごとがどんどん自分のものになっていくことを覚えておきたいですね。

